

の生産上の問題点として、種動物のF₁生産数が少ないので、供給数が低い等の問題点を指摘された。

第6の演者である食品薬品安全センター秦野研究所の室田先生は「化学物質による突然変異の誘発とmutant 系育成」について、薬物をもってしてもmutant 程のものではできないし、発癌性は1～1.5年間では強くない等の問題点につき述べられた。

最後の演者は、国立遺伝研の野口先生で、「疾患モデル研究への発生工学的手法の応用」と題して、その方法に①キメラ、②前核抜きとりによるホモ動物作成、③核移植、④遺伝子注入のほか、⑤胚凍結保存等の方法があることについて個々に詳述され、卵子凍結保存法の有用性についても触れられた。

その後、総合討論に入り、疾患モデル動物を有効利用するためには、量と質、開発と利用度等の問題点があることが指摘された。後刻、懇親会にて、実験動物を利用する第一線の研究者と膝を交えてお話しでき、大変有意義な時間を過ごすことができた。翌日午前中は、静岡県実験動物農業協同組合の高木芳一組合長理事のご好意により、遠州地区の山間部にある実験小動物のSPF生育施設を浅井秀一所長の案内で、また、午後は、生物科学技術研究所を、大島康夫所長、倉元達郎研究員に御案内を頂いた。

(倉林理事)

第2回岡山実験動物研究会講演会報告

昭和58年4月30日(土)午後2時より、岡山大学農学部本館3階第5講義室において、国立遺伝研究所・静岡実験動物研究会会長の土川清先生をお招きしておこなわれた。演題は「哺乳動物による変異原性試験」であった。さらに、猪貴義会長による「実験動物研究における最近の話題」の講演があり、参加者は約60名であった。

第3回岡山実験動物研究会講演会報告

昭和58年9月30日(金)午後4時より、重井医学研究所集會室において、東京大学理学部の館鄰先生をお招きしておこなわれた。演題は「哺乳動物の発生学の基礎と応用」であった。講演に先立ち、重井医学研究所所長・妹尾左知丸先生(岡山大学名誉教授)の御挨拶があり、その御好意により国立遺伝研究所・吉田俊秀先生の編集による「染色体上に書かれたネズミの歴史」が上映され、参加者は約60名であった。

第4回岡山実験動物研究会講演会報告

昭和58年12月3日(土)午後2時より、林原生物化学研究所・藤崎研究所において、カナダ国農商務省研究所部長、永井次郎先生をお招きしておこなわれた。講演に先立ち栗本藤崎研究所所長(当会理事)が研究所の概要について説明された。

永井先生の演題は「実験動物の開発——とくにその遺伝的手法について」であって、約60名の参加を得た。

講演会終了後、同研究所内の見学をおこなった。

第5回岡山実験動物研究会講演会開催予定

昭和59年5月19日(土)午後1時30分より、岡山大学歯学部第1講義室において、西村秀雄先生(京都大学名誉教授・学士院賞受賞者)および来日中の南カルフォルニア大学教授 Harold C. Slavkin 先生をお招きしておこなう予定である。

西村先生の演題は「先天異常に関する動物データの解釈——とくにヒトへの外挿」であり、Slavkin 先生の演題は「Genetic Engineering in Dentistry」である。

当日、新規加入会員の手続きをおこなう。